

一般科目（国語） 『出題の意図』

【一】

問題文は P. B. メダウオー・S. A. ハウトスミット『発見から創造へ』（地人書館、1987 年）に収められている編訳者・桜井邦朋の文章からの抜粋である。合理が支配的と思われがちな科学の現場において、実は非合理ともいえる偏見や執念が重要な役割を果たしていると主張する内容で、通常の見解とは異なるこうした主張をきちんと理解できるかどうかを問うのが出題の意図である。

問一から問四までは漢字と語彙の知識、及び文法の理解を確認するための問題である。

問五から問七までは、文章の内容が適切に理解できているかどうかを確認するための問題である。

【二】

問題文は「言葉と、移植患者の身体と」（『図書』、岩波書店、2000 年）と題された加藤典洋のエッセイである。前問が論説文であったのに対し、本問ではエッセイ文がきちんと理解できるかどうかを問うている。

問一から問三までは漢字と語彙の知識、及び文法の理解を確認するための問題である。

問四から問十までは、文章の内容が適切に理解できているかどうかを確認するための問題である。